

SPF 豚認定農場における AD 清浄化例

名 越 仁 宣 (株)サンエスブリーディング)

Nagoshi, H. (2008). Eradication of the Aujeszky's disease in a SPF farm.

All about SWINE 33, 12-14

これまで、SPF 豚認定農場において、野外 AD 抗体が確認されたのは延べ 15 農場、そのうち現在までに清浄化されたのは 8 農場である。

清浄化に成功した農場と未だ推進中の農場の違いなどを取り上げながら、より良い AD 清浄化対策を以下に考察する。

認定規則

GGP 農場および GP 農場では AD ウイルス抗体が陰性であること。それゆえ、AD ワクチンの使用自体禁じている。

CM 農場においては AD ワクチンの使用を認めているが、年 2 回の AD 抗体検査 (清浄地域は年 1 回) において野外 AD ウイルス抗体が確認された場合、場内豚全頭を対象にしたワクチネーションプログラムと年 4 回 (3 カ月ごと) の抗体検査成績を認定委員会に報告し、清浄化への取り組みについて承認を得なければならない、と定められている。

清浄化された 8 農場概要

ケース 1, 種豚の入れ替え (1 農場)

このケースは、場内豚すべてをオールアウトしたのではなく、母豚群を離乳後に順次淘汰していきながら、新しい更新豚群を導入していった例で

ある。それゆえ、子豚や肉豚群が、まだ場内に残っている状態で種豚を入れ替えた。

これが成功したのも、母豚 120 頭から 180 頭へ増頭する際に、ストールや分娩舎をすべて新築し、導入更新豚を隔離豚舎で飼養したからだと思われる。そして、繁殖豚群と子豚・肉豚群の管理者を分け、人の動線を完全に遮断した。

当農場は家族経営のシングルサイトだが、防疫に関して親子間に一切の甘えは無く、誠に頭が下がる思いであった。この種豚の入れ替えにより、AD は完全に清浄化された。

また、その際、PRRS も清浄化されたのだが、それから約 1 年半後の検査において、肉豚群で PRRS 陽性豚が確認された。

養豚密集地帯における PRRS 侵入防除の難しさを感じた例である。

ケース 2, 肉豚へのワクチン 2 回接種 (6 農場)

まず、種豚へのワクチネーションの特徴は、6 農場ともに、一斉接種による打ちもらしが無いプログラムであった。

- ・年 2 回一斉接種 (1 農場)
- ・年 3 回一斉接種 (4 農場)
- ・年 4 回一斉接種 (1 農場)

肉豚へは、当初 2 回で後に 1 回に変更したもの、

2回接種を継続したもの、1回接種から後に2回接種と変更したものがあつた。以下は接種日齢。

- ・ 30 + 50 → 55 → 70
- ・ 40 + 70 → 70
- ・ 45 + 75
- ・ 50 + 80
- ・ 80 → 50 + 80
- ・ 60 + 90

移行抗体の残存を考慮すると、1回目の接種時期としては早すぎるのも見受けられるが、これは、清浄化に至る初期の段階で、まだ子豚舎でADウイルスが浸潤していると判断されたからである。

まず、野外ADウイルスの浸潤を肥育舎だけに追い込むということが肝要であろう。

ケース3、肉豚へのワクチン1回接種（1農場）

この農場は、初めから肉豚へのワクチネーションは70日齢1回だけであつた。ただし種豚に対しては、AD浸潤後、分娩前1回接種から年3回一斉接種に変更された。

ここは、AD侵入前から全頭に対してワクチネーションを行っていたので、汚染度が低かつたのだと思われる。

とくに、種豚群はほとんど陰性だったので、AD陽性確認後1年足らずで清浄化された。

近隣にAD陽性農場がある場合は、種豚にだけでもワクチネーションを行うことにより、すみやかに清浄化へ至ることが示唆される。

まだ清浄化されていない7農場

種豚へのワクチネーションは、4農場はAD浸潤後しばらく分娩前1回接種だったが、現在では

一斉接種に変更されている。

- ・ 分娩前1回 → 年3回一斉接種（4農場）
- ・ 年3回一斉接種（3農場）

肉豚へのワクチネーションは、7農場共にAD浸潤確認後も1回接種だけだったが、現在では2農場が2回接種に変更している。

- ・ 70日齢1回（2農場）
- ・ 60～90日齢1回
- ・ 80 → 90 → 60 + 110 → 70
- ・ 90 → 50 + 80 → 90 → 60
- ・ 70 → 60 + 90
- ・ 80 → 50 + 80

また、これら7農場は、いずれも養豚密集地帯という地理的条件にあり、地域内には他のAD陽性農場も存在している。

推奨されるワクチネーションプログラム

- ・ 種豚群は、年3回（4カ月ごと）一斉接種
- ・ 導入更新豚は、1カ月間隔で2回接種
隔離更新豚舎で飼養されるのがベスト
- ・ 肉豚群は、60日齢 + 90日齢の2回接種

ただし、日齢で時期を決めるよりも、農場のピッグフローに合わせた接種プログラムの方がより良いと思われる。

分娩舎 → 離乳舎 → 子豚舎 → 肥育舎、という流れであれば、子豚舎と肥育舎の移動時2回接種、

分娩舎 → 子豚舎 → 肥育舎、という流れであれば肥育舎移動10日～2週間前に1回目、約1カ月後に2回目接種。子豚舎内での接種が困難であれば肥育舎移動時接種でもやむないが、その際は、肥育舎のブロックごとのオールアウト後に導入すべきである。

AD 清浄化の留意点

1. 地域ぐるみのワクチネーションの徹底

何よりも重要なことで、AD が侵入したこれら15農場というのは、いずれも養豚が盛んな地域である。近隣の農場がAD陽性なのにワクチン接種を怠っていては清浄化が困難なのは言うまでもない。

2. 場内豚全頭を対象にしたワクチネーション

3. 抗体検査による汚染度の確認, 分析

当該農場に適したワクチネーションプログラム

を模索し、まず汚染を肥育舎だけに追い込むこと。

4. 空豚房の洗浄, 消毒, 乾燥

5. 防疫設備および管理面の徹底

とくに、人、出荷トラック、へい獣処理、工事業者および工事車両などに注意が必要である。

そして、オーエスキー病は、清浄化は十分可能な疾病であり、清浄化を実現すべき病気であること、清浄化によるメリットが多大であることを認識することが必要であろう。